



市民福祉ネットワークひろしま加入団体紹介

市民福祉ネットワーク“ひろしま”は、広島市内に活動拠点を置く住民参加型在宅福祉サービス団体、福祉分野のNPO法人、非営利福祉活動団体などの市民福祉活動団体が、利用者主体のサービスを実現することを目的として互いに連携・協働している集まりです。

特定非営利活動法人WAC広島ふれあいセンター

住み慣れた地域で安心して在宅で暮らしていただくための支援活動を行っています。

- 【対象】**
 ●高齢者、身体に障害をお持ちの方、育児中の方等
- 【活動内容】**
 ●生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理、話し相手、通院介助等）
 ●身体介護（食事介助、入浴介助、身体の清拭や洗髪、トイレ介助等）
 ●子育て支援など

- 【利用条件】**
 年会費 3,000円 利用料 1時間850円 交通費 一律700円
- 【問い合わせ】**
 〒730-0017 広島市中区鉄砲町1-20 第3ウエノヤビル6階C号室
 TEL 082-222-8838 FAX 082-222-8281
 （開設日 月曜日～金曜日）9:00～17:00
 E-mail chikochan@tkcnf.or.jp

ボランティア情報センターに利用登録している団体紹介

ボランティア健福17

広島県高齢者健康福祉大学17期生26名の同好会です。高齢ながら自分の得意分野を活かしたボランティア活動で自分のためにも相手にとってもメリットとなることを目標に活動をしています。

- 【活動内容】**
 ○毎週月曜日広島市発達障害者支援センターのサロンで発達障害者の話し相手や囲碁・将棋の相手をする。
 ○ボランティア情報センターからのボランティアに対応する。
 ○研修会を開き、学習会を行う。
 17期生同好会とともに障害者施設、病院施設の訪問等。
 ○定例会は、毎月第4週の水曜日
- 【問合せ先】**
 広島市ボランティア情報センター
 TEL 082-544-3399 FAX 082-544-3404

盲導犬の理解をすすめるキキの会

盲導犬を理解していただくための会です。

- 「盲導犬キキ風のように光のように」**
 かもがわ出版の販売による収益と皆様からの募金を資金に活動しています。昨年6月に引退した盲導犬キキを通して盲導犬の役割の素晴らしさに共鳴を受けたという人々によって、成り立っています。現在はドロシーがキキの役割を受け継いでいます。
- 【活動内容】**
 講演活動、写真展、盲導犬に関する本の出版と販売、盲導犬とのふれあいなど（ご依頼により講演、写真展も行っています）詳しくはホームページで。
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~kikiimai/>
- 【問合せ先】**
 盲導犬の理解をすすめるキキの会
 082-262-1672 又は、080-5614-9616

新着図書紹介（2011.2現在）

1	よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック	(社福) 全国社会福祉協議会
2	コミュニティソーシャルワーク 1～6	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所
3	2010年版 新任 民生委員・児童委員の活動の手引き	(社福) 全国社会福祉協議会
4	増補 保育所における家庭支援 一新保育所保育指針の理論と実践	金子 恵美
5	社協の醍醐味	(社福) 豊中市社会福祉協議会、牧里 毎治
6	地域ケア会議がつなぐ お互いさまのまちづくり	小倉勝世と雄琴地域ケア会議編集委員会
7	輝く ～ボランティア・ネットワークの20年～	NHK学園専攻科CSネットワーク

新着DVD

481	その他 民生委員・児童委員のための研修ビデオ 1,2	36分	H22	元NHKアナウンサーの中村克洋さんが進行役となって進められている。第1編・第2編では、事例をもとに課題を設定し、それにもとづいた討議の時間が設けられている。
482	相談・支援活動のポイント<基本編><応用編>	34分		
483	その他 民生委員・児童委員のための研修ビデオ 3 組織活動編「民児協活動展開のポイント」	32分	H22	元NHKアナウンサーの中村克洋さんが進行役となって進められている。第3編では課題についての討議後、取材による各事例についての解説と学習ポイントを手引書に掲載。
484	その他 民生委員・児童委員のための研修ビデオ (DVD版)	102分	H22	第1編「相談・支援活動のポイント<基本編>」約36分 第2編「相談・支援活動のポイント<応用編>」約34分 第3編「組織活動編 民児協活動展開のポイント」約32分
485	ボラ スマトラ沖地震・津波被災地での福祉活動 (DVD版)	24		スマトラ沖地震・津波被災地での福祉活動についての紹介

今後のボランティア募集予定

このほか、ボランティア募集やボランティア講座なども市協ホームページで、随時お知らせしますので、ご覧下さい。

4月17日 “福祉まつり”において

ステージや障害者作業所が行なう自主製品販売や模擬店の援助。

5月3日～5日 フラワーフェスティバル開催中に

車いす貸出・介助ボランティア、「ふれあい広場」「イクちゃんベビールーム」でのお手伝い。

8月6日

広島平和記念式典での車いす介助ボランティア



ふれあいネットワーク

社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

URL <http://shakyo-hiroshima.jp/>

〒730-0052 広島市中区千田町1-1119番43号
 広島市社会福祉センター内 TEL:082-243-0051(代表)
 広島市ボランティア情報センター直通
 TEL:082-544-3399 FAX:082-544-3404

E-Mail: voinfo@shakyohiroshima-city.or.jp

2011.3 No. 25

コーディネーターカUPセミナー

★ぼらこ★バス★発車!!



NPO法人もちもちの木「古田のおうち」の様子



バスの中では紙芝居で学びました



“珍どんや”さんと一緒に駅前市場を回りました



駅前市場「ふれあい工房」の様子

3月5日(土)、「ここに行くと元気が出る!」と評判の活動現場から、ボランティアコーディネーターの秘訣を学ぼうと、14名の受講者がマイクロバスに乗り込み、NPO法人もちもちの木「古田のおうち」と駅前愛友市場「ふれあい工房」を訪ねました。受講者は、タイトルに惹かれた方、ボランティアさんが長続きしない、定着しないなどの課題を抱えておられる方など、様々な動機で受講されていました。講師からは、「全部コーディネーターでしない。ボランティアの良さである自発性が出てくるような“しかけ”をしておく」「行動あるのみ。ボランティアは皆平等、何でも肯定的に受け入れる」など数々のアドバイスがありました。受講者はうなずきながらメモをとり、まとめの時間に自分なりに得たものを発表し、魅力あるコーディネーター・利用者の居る所で、魅力ある活動現場にしていくことの必要性を学び合いました。

このセミナーは、過去に「ボランティアコーディネーター養成講座」を受講終了した方、ボランティア担当歴3年以上の方を対象としたものです。このような、市域で活動するボランティアコーディネーターが互いに顔見知りになり、“つながる”場づくりを、今後もすすめていきたいと思っております。

※「ぼらこ」とは、ボランティアコーディネーターの略です。

ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編

～福祉施設でのボランティアの受け入れについて～

12月18日(土)に西区地域福祉センターを会場に開催し、医療機関、高齢者施設、NPOなどでボランティア担当をされておられる方13人の参加がありました。

午前中は夙川学院短期大学の講師である南多恵子氏から、施設におけるボランティアコーディネーターの意義や役割についてお話をうかがいました。その中で、ボランティアが安心して活動できる環境の必要性やボランティアの強み・弱み、ボランティア募集を行う時のポイント、オリエンテーションの重要性について学びました。

午後からは、大阪府立整肢学院のボランティアコーディネーター後藤光弘氏から、自身の体験談をもとにグループワークを行い、オリエンテーションの大切さや施設全体として取り組むことの重要性を学びました。

時間的な都合からグループワークで十分話し合いができなかったものの、オリエンテーションが不十分な場合と十分な場合を目の前で見せられて受講者がハッとする場面もあるなど、ボランティアコーディネートについて理解を深めました。

ボランティアは、施設職員と共に、利用者のことを考えて行動する良きパートナーです。ボランティアの強みを生かしたコーディネートやマネジメントを、施設と社協ボランティアセンターが協力して行っていきましょう。



企業の皆様、ありがとうございます！

昭和産業(株)、自社製品を使った料理教室開催で、にこにこクラブメンバーの進級・進学をお祝い

昭和産業(株)広島支店様から、自社製品(ホットケーキミックス等の粉類、油類等)を利用し、出張親子料理教室を開催したいと申し出がありました。早速、障害のある子どもたちの地域活動を行っているグループに働きかけたところ、7つのグループから受入の希望がありました。開催日時等の関係で、安芸区を中心に活動している「にこにこクラブ」とのコラボが3月12日(土)、実現しました。

当日は、広島市社会福祉センター6階の料理室いっぱいの参加者で、とても素敵なホットケーキやもちもちパンができあがり、みんなでおいしくいただきました。

この日を迎えるまで、何度も企業とグループの打合せや会場下見が行われました。このような活動を通じて、多くの出会い、気づき、ボランティア活動が広がっていくことを願っています。【企業の方から】「参加者の皆さんの笑顔が見れて、たいへんうれしかったです。ボランティアの方々にも、お世話になりました。」



2011年版カレンダーの寄贈、ありがとうございました

「企業の社会貢献活動研究会」所属企業をはじめ、住友林業(株)様等からご寄贈いただいたカレンダー約400本や手帳は、広島市社協及び各区社協を通じて一人暮らしの高齢者や障害者の世帯へ、また、福祉センター等の利用者の皆様へ、残らず提供させていただきました。大変ありがとうございました。今後とも、ひきつづきどうぞよろしくお願い申し上げます。

広島市被災者支援ボランティア本部を開設しました

東北関東大震災による被災者支援を目的に、平成23年(2011年)3月16日、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議を開催し、3月17日から同会議メンバーで構成する「広島市被災者支援ボランティア本部」を開設しました。ボランティアとして被災地に行くことはまだできませんが、市民の皆様方の思いを受け止めるために、事前登録という方法をとらせていただくことにしました。今後、この被災者支援ボランティア本部で情報収集や発信、調整を行っていきます。すでに救援物資の仕分けや、市内に転入してこられている被災者への支援などの活動が始まっています。広島市社会福祉協議会のホームページをご確認いただき、状況の変化をご確認下さい。

広島市被災者支援ボランティア本部の連絡先

広島市社会福祉センター3階市民福祉サロン
電話：082-544-3399 FAX：082-544-3404
E-mail：voinfo@shakyohiroshima-city.or.jp

★広島市社会福祉協議会のホームページから登録できます。

東北関東大震災に係る義援金の募集について

【中央共同募金会】

◇義援金窓口 郵便局・ゆうちょ銀行
□座記号番号：00170-6-518
□座加入者名：中央共同募金会 東北関東大震災義援金

【日本赤十字社】

◇義援金窓口 郵便局・ゆうちょ銀行
□座記号番号 00140-8-507
□座加入者名 日本赤十字社 東北関東大震災義援金
取り扱い期間 平成23年3月14日～平成23年9月30日
※郵便局窓口での取り扱いの場合、振替手数料は免除されます。

災害ボランティアセンター設置運営マニュアル完成！ 標準例

開設・運営シミュレーション実施!!

広島市社会福祉協議会、及び各区社会福祉協議会は、「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」の構成員として、「広島市災害ボランティア本部」、「区災害ボランティアセンター」の設置運営に参画します。

これらの「災害ボランティアセンター」は、被災者が一日も早く日常生活を再開させることを願い、生活の復旧・復興をボランティア活動によって支援するために設置するもので、「災害対策本部」と連携し、さまざまな団体スタッフで構成する協働型センターです。

2月14日、安佐北区地域福祉センターにてシミュレーションを実施しました。

- ・全体監督・助言者＝桑原英文氏(「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」幹事)
- ・参加者＝16団体32名
- ・内容＝開設準備段階と開設後の2部構成で、それぞれ各班等に提示された指示書に基づき、判断、連絡調整、作業などを体験。



ミーティングで情報共有を!

体験!発見!!ほっとけん!!!やさしさ発見プログラム事業

「心のバリアフリー教室」開催

2月5日、国土交通省中国運輸局と共催し、「心のバリアフリー教室」を開催しました。これは、知的・精神・発達障害への理解を深めることを目的としたもので、本人(障害当事者)の声を聴くフリートークを内容に取り入れたことがポイントです。当日は県内のバス・電車等交通事業者28名、市民64名の参加があり、本人及び支援者の話を聴いて、「なるほど、そうだったのか…聴いてみないとわからないもんだな…」『こういう教室に参加して、心を風化させないようにしたい』といった気づきがたくさん生まれました。

心をバリアフリーにするために 「やさしさ発見プログラム」事業をご活用ください!

地域社会は、さまざまな特性を持った人で構成されています。「何か困っておられるようだが…」「なぜ、このような行動・言動をとるんだろう…」と思われる場面に遭遇したとき、「もしかして、何らかの障害がある人かも」と気づいて、「どんなふうにコミュニケーションをとったらいいんだろう?」と考えた経験はありませんか?



☞ 日頃から、社会福祉協議会が開催する、さまざまな福祉講座・ボランティア講座へご参加ください。

☞ あなたの職場、地域で、心をバリアフリーにする研修会を開催しませんか?

社会福祉協議会では、「やさしさ発見プログラム」事業を活用し、講師紹介・派遣ができます。

「やさしさ発見プログラム」事業を支えてくださっているのが、福祉活動体験学習サポーターのみなさんです。現在、約500名の方々が参加してくださっています。

11月16日には、「視覚障害当事者グループ交流会」に引き続き、「視覚障害者理解編のサポーター養成講座」を開催しました。当事者とボランティア、あわせて97名の参加があり、「まだまだ理解学習をすすめていくことの必要性」を確認しました。

また、平成22年度中に約160件の「やさしさ発見プログラム」が、学校や地域、職場で実施され、約19,000名が参加しました。参加者は、障害当事者の話を聴いたり、車いすやアイマスクの体験をしたり、また、手話や点字の学習をしたりして、「障害」を理解するとともに、だれもが安心して生活ができる社会にするために自分達には何ができるかを考えました。

参加者の声

- ★盲導犬がハーネスをつけている時にはさわってはいけないが、視覚障害者の方には、話しかけて信号の色などを教えてあげる方がいいことがわかりました。
- ★初めてのアイマスク体験で、思った以上に歩くのが難しかったです。手引きはお互いの信頼感が大切だということがわかりました。
- ★段差のところで車いすを上げるのが難しかったです。乗っている人の気持ちを考えて押さないといけないと思いました。やさしく声をかけることが大切だと思いました。
- ★自転車をとめるとき、点字ブロックをふさいだり、歩く人に迷惑をかけたりするとめ方はしないようにしようと思いました。
- ★手話であいさつを覚えることができたので、もし耳に障害がある人に会ったら手話で声をかけたいと思います。手話ができたらたくさんお話ができるので、これからも練習していきたいです。